

日本のブナ林を訪ねて

Japanese beech forests



青山 忠道
Chudo Aoyama

はじめに

日本列島には、ブナの森がたくさん残されている。

北限のブナは、北海道渡島半島黒松内町歌才のブナ林である。また南限のブナは、鹿児島県大隅半島の高隈山地にあるブナ林である。

日本各地に残された美しいブナ林に魅せられ、全国 110 カ所以上、延べ数で 150 カ所ほど訪れ、その間 20 年以上の歳月が流れた。

印象に残るブナ林をいくつか挙げると、最初に撮影に訪れたのが茨城県北西部にある八溝山で、まだ芽吹きもなく、林床にシュンランやカタクリなどが咲く 1995 年の春だった。

その後、翌年春に南限のブナのある鹿児島県の高隈山地最高峰の^{オオノガラダケ}大箆柄岳に行く。登山道入口付近にはウラジロ（シダ）の芽が伸び出し、エビネが可憐に咲いていた。標高が上がると、ブナの若い木が見られ、頂上部には枝枯れし、枝一、二本で生きている古木が数本あり、ちょうど芽吹きの時期であった。

その後、名水男池のある大分県黒岳のブナ林や、^{イシツチ}四国愛媛県の石鎚山や高知県の瓶ヶ森林道の石を抱く新緑のブナや、徳島県の剣山見ノ越のブナ林などを巡った。

また初夏には、北限のブナのある北海道黒松内町歌才のブナ林へ行く。ここでは本州では数少なくなったクマゲラの営巣穴も見られた。同島牧村の賀老の滝周辺のブナや太古の森のブナ林も訪れた。その翌年春に、秋田県乳頭山を訪れたときは、小雨が一日中降る日だったが、ブナの新緑の若葉と幹が雨に濡れ、感動の撮影日となった。

秋の撮影では、長野県小谷温泉鎌池、同奥裾花、青森県白神山地の白神ラインや十二湖、蔦七沼の森、秋田県二ツ森や十和田湖で、錦秋に彩られたブナ林に遭遇した。その後、冬の撮影では、山形県の月山、湯殿山の後、山形蔵王でロープウェイとリフトを乗り継ぎ、雪と樹氷で凍り付く厳寒のドッコ沼のブナ林を訪れた。

この他、全国のブナ林を廻り、その時々の一期一会の表情を捕らえ、また林内にあるその他の植物や生物も含めて、お伝えできれば幸いである。

最後に、日本のブナ林は、樹種の構成から大きく分けて、日本海側型のブナ林（葉は大きく、林床にエゾユズリハ、オオバクロモジやチシマサザ等がある）と太平洋側型のブナ林（葉は比較的小さく、林床にクロモジやスズタケ等がある）とその両方の樹種が混生するブナ林とに分けられる。

これらの美しいブナ林が、悠久に続くことを願い、出版のご挨拶といたします。

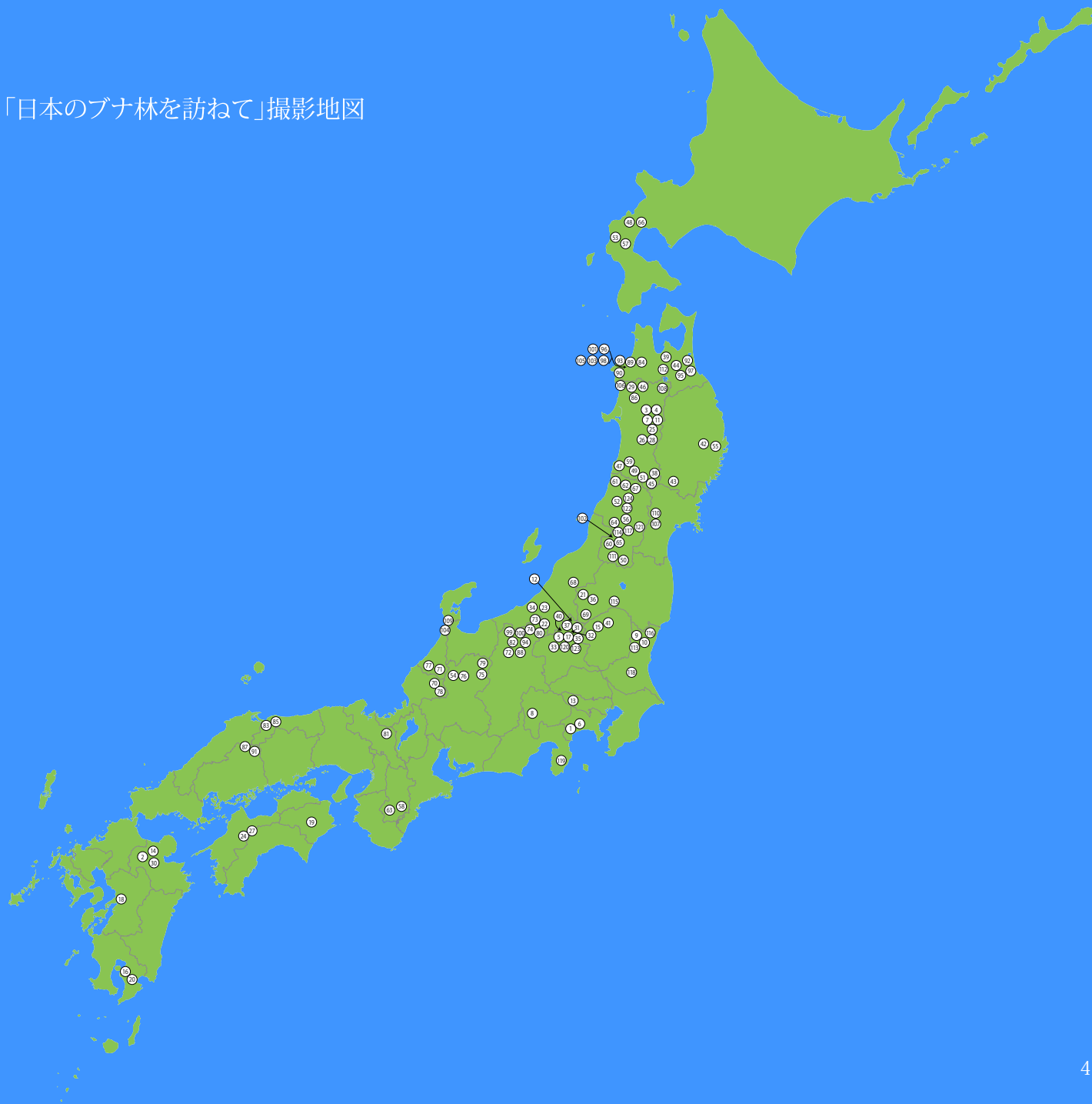
青山忠道

日本のブナ林を訪ねて Japanese beech forests

Contents

はじめに	2
地図	4
春 Spring	5
夏 Summer	45
秋 Autumn	66
冬 Winter	113
略歴	119

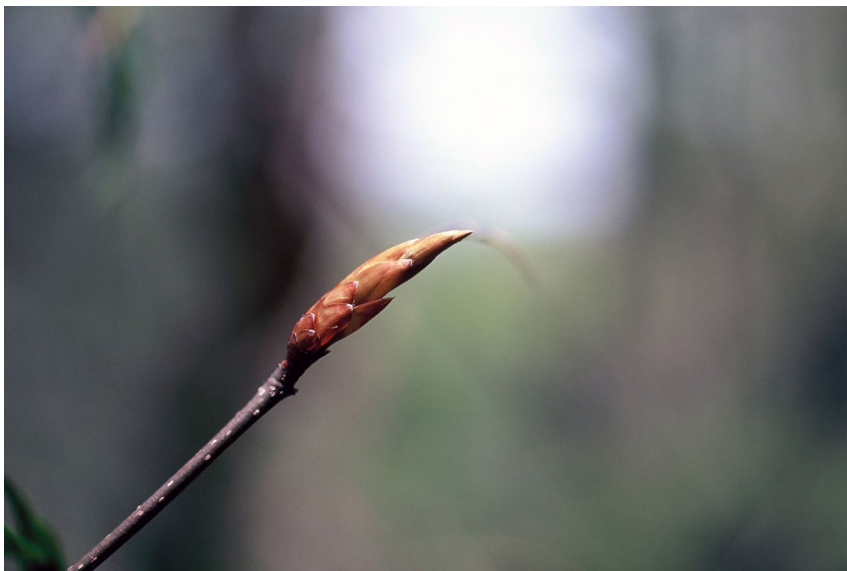
「日本のブナ林を訪ねて」撮影地図





(1) 新緑 神奈川県神山

春 Spring



(2) 冬芽ふくらむ 大分県黒岳



(3) 新芽の展開 秋田県八幡平大沼



(4) 芽吹きของブナ 秋田県八幡平大沼



(5) ブナの若葉 群馬県玉原高原



(6) ブナ大木林 神奈川県丹沢大丸

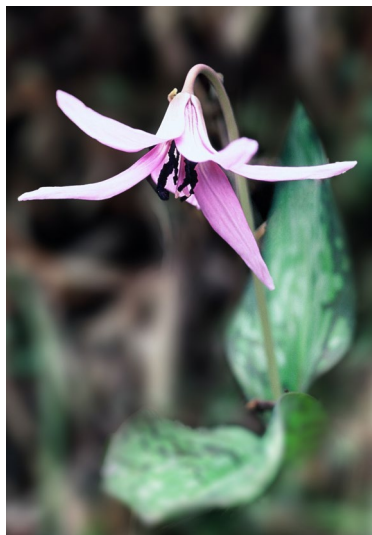


(7) 新葉 秋田県八幡平大沼



(8) 芽吹き前のブナ 山梨県夜叉神峠

spring
ephem-
eral
早春植物



(9) カタクリ 茨城県 八溝山



(11) ショウジョウバカマ 秋田県八幡平大沼



(10) シュンラン 茨城県 八溝山



(12) キクザキイチリンソウ 群馬県奥利根水源の森